

茨城県花き振興計画（第2次）

～ブランド力のある産地づくりを目指して～

令和5年3月

茨城県

茨城県花き振興計画（第2次）

- 1 計画のねらい・・・・・・・・・・・・・・・・
- 2 計画期間と目標・・・・・・・・・・・・・・・・
- 3 花きの現状
 - (1) 生産の動向
 - ア 産出額の推移・・・・・・・・・・・・・・・・
 - イ 作付面積の推移・・・・・・・・・・・・・・・・
 - ウ 経営体数の推移・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (2) 輸入の動向・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (3) 消費の動向・・・・・・・・・・・・・・・・
- 4 花きの課題
 - (1) 生産体制の強化・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (2) 流通体制の強化・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (3) 消費拡大の取組・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (4) 担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (5) 産地の活性化・・・・・・・・・・・・・・・・
- 5 振興方針
 - (1) 生産体制の強化・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (2) 流通体制の強化・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (3) 消費拡大の取組・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (4) 担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (5) 産地の活性化・・・・・・・・・・・・・・・・
- 6 品目別の振興方針
 - (1) 輪ぎく・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (2) 小ぎく・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (3) ばら・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (4) カーネーション・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (5) グラジオラス・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (6) フリージア・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (7) 切枝類・・・・・・・・・・・・・・・・
 - (8) 鉢花・花壇苗類・・・・・・・・・・・・・・・・

1 計画のねらい

本県は、広大で平坦な農地や温和な気候、首都圏に位置する地理的優位性などの強みを背景に農業が発展し、農業産出額は4,263億円（令和3年：農林水産省・生産農業所得統計）で全国第3位に位置しています。

その中で、花きについては、産出額が159億円（令和3年：農林水産省・生産農業所得統計）で全国第5位に位置しており、県の農業産出額の約3.7%を占めています。

近年、社会情勢の変化に伴う消費者ニーズや流通形態の多様化に加え、輸入農作物の増大による国内外の産地間競争の激化などにより、産地の維持・発展はより一層重要な課題となっています。

このような状況を踏まえ、国では平成26年に「花きの振興に関する法律」を制定し、平成27年には「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」を公表しました。

このため、県、生産者およびその他関係団体が連携して技術や品質の向上に努め、消費者や実需者のニーズにあった商品づくりを行い、生産・流通・販売の体系的な整備に取り組むことによって、花き産業及び花き文化の振興を総合的に推進するための基本方針として、「茨城県花き振興計画」を策定します。

2 計画期間と目標

計画期間 令和4年度～令和8年度

目 標 令和8年の花き産出額 165億円

<これまでの状況>

初計画（計画期間：平成29年度～令和3年度）

目 標：令和3年の花き産出額 140億円

実 績：159億円（達成率：114%）

3 花きの現状

(1) 生産の動向

ア 産出額の推移

花きの産出額については、戦後の経済発展とともに全国的に増加していき、茨城県においては、バブル景気の絶頂にあった平成3年（1991年）に208億円と最高額となりましたが、バブル崩壊以降は減少傾向となり、平成20年（2008年）のリーマン・ショックの際には117億円にまで下がりました（表1）。全国的には、平成10年（1998年）に4,734億円と最高額となりましたが、以降はバブル崩壊や平成9年（1997年）の消費税増税に伴う急速な景気悪化の影響を受け、現在に至るまで減少傾向が続いています（表1）。一方、茨城県については、平成21年（2009年）以降は切枝類の産出額の増加に伴い、産出額は回復傾向となっています（表1）。都道府県別の花き産出額を比較しても、平成20年（2008年）は全国10位であったのが、令和3年（2021年）には5位にまで上昇しています。

表1 花き産出額の推移 (単位：億円)

	H3	～ H10	～ H15	～ H20	～ H25	～ H29	H30	R1	R2	R3
全国	4,171	4,734	4,256	3,656	3,485	3,438	3,327	3,264	3,080	3,306
茨城	208	157	126	117	134	141	137	132	145	159
うち切枝類	—	—	13	17	26	31	33	36	51	57
うち芝	—	—	38	27	24	28	26	25	25	25

出典：生産農業所得統計【農林水産省】

イ 作付面積の推移

花き類の作付面積については、全国では平成12年（2000年）の24,540ha、茨城県では平成13年（2001年）の876haがピークとなりましたが、産出額と同様、急速な景気悪化の影響を受け、それ以降は減少傾向が続いています（表2-1）。品目別に見ると、特に球根類の作付面積の減少が著しいですが、これについては、景気が低迷する以前から減少傾向が続いていることから、輸入の増加による影響が大きいと考えられます（表2-1）。一方、茨城県の花壇苗物類の作付面積については、平成27年（2015年）以降は増加傾向となり、令和2年（2020年）には66haとピーク時と同等以上に回復しています（表2-1）。

芝については、産出額、作付面積ともに茨城県が全国1位の産地となっており、令和2年（2020年）の作付面積は3,100haで全国の約68%を占めています（表2-2）。作付面積については平成7年（1995年）の4,840haをピークに減少傾向となりましたが、平成24年（2013年）以降は横ばいで推移しています（表2-2）。

表2-1 花き作付面積の推移

(単位：ha)

花き類別	H12	H13	～	H20	～	H25	～	H29	H30	R1	R2	R3
①切花類	19,700	19,400		16,840		15,380		14,460	14,170	13,800	13,410	13,280
うち 切枝類	—	—		3,996		3,718		3,629	3,674	3,620	3,625	3,621
全 ②鉢物類	2,154	2,133		1,963		1,796		1,643	1,605	1,549	1,503	1,474
国 ③花壇用苗物類	1,691	1,767		1,640		1,531		1,401	1,378	1,327	1,301	1,277
④球根類	995	883		567		414		304	287	259	255	239
計	24,540	24,183		21,010		19,121		17,808	17,440	16,935	16,469	16,270
①切花類	674	674		592		593		559	567	554	541	539
うち 切枝類	—	—		333		337		359	370	370	376	382
茨 ②鉢物類	83	82		88		86		82	80	75	73	73
城 ③花壇用苗物類	53	64		53		55		64	67	65	66	68
④球根類	60	56		24		11		—	—	1	—	—
計	870	876		757		745		(705)	(714)	695	(680)	(680)

出典：作物統計調査【農林水産省】 球根類は、H26年以降3年おきの公表となったため、()内は球根類を除く数値を表記。

表2-2 芝の作付面積の推移

(単位：ha)

	H5	～	H7	～	H10	～	H15	～	H20	～	H25	～	H28	H29	H30	R1	R2
全 日本芝	9,916		10,290		8,529		7,065		6,305		5,295		5,144	4,940	4,864	4,233	4,215
国 西洋芝	261		195		393		516		248		421		385	371	377	296	327
合計	10,177		10,486		8,922		7,580		6,553		5,716		5,529	5,312	5,241	4,529	4,542
茨 日本芝	4,410		4,838		4,648		4,130		3,680		3,100		3,100	3,100	3,100	3,100	3,100
城 西洋芝	1		2		2		—		—		—		—	—	—	—	—
合計	4,412		4,840		4,650		4,130		3,680		3,100		3,100	3,100	3,100	3,100	3,100

出典：花木等生産状況調査(旧：花きの生産状況調査)【農林水産省】

ウ 経営体数の推移

花きの経営体数(花木を含む)については、平成17年(2005年)以降減少傾向が続いており、令和2年(2020年)は、全国で42,784経営体と平成17年(2005年)の51.5%、茨城県で1,079経営体と平成17年(2005年)の58.6%に減少しています(表3-1)。品目別に見ると、全国では鉢物類の減少率が最も高いのに対し、茨城県では球根類の減少率が最も高くなっています(表3-2)。

表3-1 花き(花木を含む)の経営体数の推移

(単位：戸)

	H7	H12	H17	H22	H27	R2
全 経営体数	74,309	65,843	83,040	69,236	54,830	42,784
国 うち露地	—	—	59,005	49,053	38,207	29,835
うち施設	—	—	39,141	33,254	26,981	22,073
茨 経営体数	1,575	1,438	1,840	1,532	1,288	1,079
城 うち露地	—	—	1,430	1,186	991	863
うち施設	—	—	690	622	561	467

出典：農業センサス【農林水産省】

表3-2 花きの品目別経営体数の推移 (単位：戸)

花き類別	H22	H27	R2
①切り花類	47,854	38,083	30,152
全 ②鉢物類	7,819	6,043	4,548
国 ③花壇用苗物類	5,362	4,292	3,495
④球根類	3,405	2,862	2,097
①切り花類	940	785	678
茨 ②鉢物類	261	203	168
城 ③花壇用苗物類	174	149	135
④球根類	64	48	39

出典：農業センサス【農林水産省】

(2) 輸入の動向

花きの輸入は切花類が大半を占め、関税が廃止された昭和60年(1985年)以降、金額、数量ともに増加傾向となっていました。令和2年(2020年)以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響による国内需要の低迷によってやや減少しました。特にカーネーション類が多く、令和2年(2020年)の切花類に占める輸入割合は、数量ベースで65%となっています(農林水産省「花きの現状(令和4年12月)」より)。

近年の品目別の輸入割合について見ると、洋ラン類が最も高く、金額ベースで67~71%、数量ベースで85~87%となっており、次いでカーネーション類が高く、金額ベースで52~55%、数量ベースで59~62%となっています(表4-1)。

球根類の輸入数量については、平成12年(2000年)の6.5億球をピークに減少傾向にあります。国内出荷量が平成3年(1991年)の4.9億球をピークに大きく減少していることから、国内消費量に占める輸入割合は増加傾向にあり、平成12年(2000年)の67.8%に対し、令和2年(2021年)は79.3%に増加しています(表4-2)。

表4-1 切花類の輸入状況

(単位：億円・千万本)

		H14	H15	～	H20	～	H25	～	H29	H30	R1	R2	R3
金額	切花類計	輸入	35.6	38.3	62.2	89.4	98.1	98.1	97.9	82.9	91.1		
		国内出荷	558.8	559.8	539.2	485.2	470.5	464.7	456.0	419.3	466.3		
		合計	594.5	598.1	601.4	574.6	568.6	562.8	553.9	502.2	557.4		
		輸入割合(%)	6.0%	6.4%	10.3%	15.6%	17.3%	17.4%	17.7%	16.5%	16.3%		
	カーネーション類	輸入	3.4	3.8	10.7	24.3	30.1	27.7	28.0	26.3	30.1		
		国内出荷	41.1	40.6	37.8	31.4	25.9	24.9	25.1	21.8	24.8		
		合計	44.5	44.3	48.5	55.7	56.0	52.6	53.1	48.1	54.9		
		輸入割合(%)	7.6%	8.5%	22.1%	43.6%	53.7%	52.6%	52.6%	54.7%	54.8%		
	金 菊類	輸入	3.3	3.7	11.0	22.1	25.1	27.1	26.9	22.7	22.3		
		国内出荷	147.1	149.7	142.3	127.2	124.9	123.8	117.7	115.1	119.2		
		合計	150.4	153.4	153.3	149.3	150.0	150.9	144.6	137.8	141.5		
		輸入割合(%)	2.2%	2.4%	7.2%	14.8%	16.7%	18.0%	18.6%	16.5%	15.7%		
	バラ類	輸入	4.3	5.2	10.9	10.6	11.1	10.4	10.5	6.9	8.1		
		国内出荷	74.4	73.8	71.1	56.9	51.1	49.1	47.3	40.5	47.6		
		合計	78.7	79.0	82.0	67.5	62.3	59.5	57.8	47.4	55.7		
輸入割合(%)		5.5%	6.5%	13.2%	15.7%	17.9%	17.5%	18.2%	14.6%	14.6%			
洋ラン類	輸入	11.5	12.2	15.3	17.8	17.5	17.9	17.8	15.2	17.6			
	国内出荷	16.9	15.6	14.8	11.6	8.6	8.8	7.6	6.2	7.3			
	合計	28.4	27.8	30.1	29.4	26.1	26.7	25.4	21.5	24.9			
	輸入割合(%)	40.4%	43.9%	50.8%	60.7%	67.1%	67.2%	70.0%	70.9%	70.5%			
その他切花	輸入	13.1	13.5	14.3	14.5	14.3	14.9	14.8	11.7	13.0			
	国内出荷	279.4	280.1	273.2	258.1	260.0	258.1	258.2	235.7	267.3			
	合計	292.5	293.6	287.5	272.6	274.3	273.0	273.0	247.3	280.3			
	輸入割合(%)	4.5%	4.6%	5.0%	5.3%	5.2%	5.5%	5.4%	4.7%	4.6%			
切花類計	輸入	6.4	7.2	11.4	16.6	18.0	17.6	17.2	14.2	14.5			
	国内出荷	95.0	95.1	90.6	76.1	69.4	67.5	65.5	61.5	63.6			
	合計	101.5	102.2	102.0	92.8	87.5	85.1	82.6	75.7	78.0			
	輸入割合(%)	6.3%	7.0%	11.1%	17.9%	20.6%	20.7%	20.8%	18.8%	18.6%			
カーネーション類	輸入	0.8	1.0	3.0	5.9	7.4	6.8	6.5	6.3	6.6			
	国内出荷	8.1	8.3	7.8	6.0	4.7	4.6	4.4	3.9	4.0			
	合計	8.8	9.3	10.7	11.9	12.1	11.4	10.8	10.2	10.6			
	輸入割合(%)	8.6%	10.7%	27.6%	49.9%	61.4%	59.9%	59.7%	61.8%	62.1%			
数 菊類	輸入	0.7	0.7	2.3	4.6	5.1	5.2	5.4	4.0	4.0			
	国内出荷	28.2	27.8	27.7	23.7	22.7	21.6	21.0	20.4	20.9			
	合計	28.8	28.6	30.0	28.3	27.8	26.8	26.4	24.4	24.8			
	輸入割合(%)	2.3%	2.6%	7.7%	16.1%	18.2%	19.4%	20.4%	16.5%	16.0%			
量 バラ類	輸入	1.1	1.5	2.0	1.8	1.7	1.6	1.5	0.9	1.0			
	国内出荷	9.7	9.5	8.6	7.0	5.9	5.7	5.4	4.9	4.8			
	合計	10.8	11.0	10.6	8.8	7.6	7.3	6.9	5.8	5.8			
	輸入割合(%)	10.5%	13.4%	18.9%	20.6%	22.3%	21.7%	21.9%	16.3%	17.2%			
洋ラン類	輸入	2.0	2.2	2.4	2.4	2.2	2.2	2.1	1.6	1.6			
	国内出荷	0.7	0.7	0.6	0.5	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3			
	合計	2.8	2.8	3.0	2.8	2.5	2.5	2.4	1.9	1.9			
	輸入割合(%)	73.6%	76.5%	81.3%	83.7%	86.0%	86.8%	87.2%	85.6%	84.9%			
その他切花	輸入	1.8	1.8	1.6	1.9	1.7	1.8	1.7	1.3	1.3			
	国内出荷	48.4	48.8	46.0	39.0	35.7	35.3	34.4	32.1	33.5			
	合計	50.2	50.6	47.6	40.9	37.4	37.1	36.1	33.4	34.8			
	輸入割合(%)	3.7%	3.5%	3.4%	4.7%	4.4%	4.8%	4.7%	3.8%	3.7%			

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】

表4-2 球根類輸入数量の推移

(単位：千万球)

	H7	～	H10	～	H12	～	H15	～	H20	～	H25	～	H29	H30	R1	R2	R3
輸 入	49.8	61.1	64.6	54.7	43.6	38.6	33.6	31.6	30.6	28.2	29.9						
うち チュリップ属	19.5	24.3	25.4	21.3	16.3	14.5	12.8	11.9	11.7	10.5	11.6						
うち ユリ属	16.9	16.1	19.4	17.6	15.2	13.3	11.4	10.6	10.5	9.5	9.6						
うち グラジオ属	1.0	2.1	2.5	2.8	3.4	3.1	2.9	2.8	3.0	2.7	2.5						
国内出荷	36.8	31.1	30.6	20.4	15.7	11.2	9.1	8.6	7.6	7.4	7.4						
合 計	86.6	92.2	95.2	75.0	59.3	49.8	42.8	40.2	38.2	35.6	37.3						
輸入割合(%)	57.5%	66.3%	67.8%	72.9%	73.5%	77.5%	78.7%	78.7%	80.0%	79.3%	80.1%						

出典：植物検疫統計【植物防疫所】及び作物統計調査【農林水産省】

(3) 消費の動向

1世帯当たりの年間花き購入金額は、平成11年（1999年）の23,820円をピークに減少傾向となり、令和3年（2021年）には16,706円となっています（表5-1）。特に切り花の購入金額が著しく減少しており、平成9年（1997年）の13,100円をピークに、令和3年には7,899円と約40%減少しています（表5-1）。一方、園芸用品及び園芸植物の購入金額については、令和元年（2019年）までは減少傾向にありましたが、令和2年（2020年）以降は増加に転じています（表5-1）。

年齢別の花きの購入金額については、いずれの世代も減少傾向にはありますが、若い世代ほど金額が低いという傾向は現在も変わっていません（表5-2）。しかし、平成14年（2002年）以降の減少幅が最も大きいのは50代であり、次いで40代、60代、70代以上、30代、20代の順となっています（表5-2）。

花きの購入金額の減少については、景気低迷に伴う収入の減少が一つの要因として考えられ、年収の減少と平行して年消費支出金額も減少しています（表5-1）。しかし、年収及び年消費支出金額に比べ、花きに対する支出金額の減少率が大きいことから、花きは景気の影響を受けやすい品目であることが改めて伺えます。

表5-1 1世帯当たり年間の収入と支出の推移 (単位：千円)

収支項目	H9*	H10*	H11*	H12	～	H15	～	H20	～	H25	～	H29	H30	R1	R2	R3
年収入	7,143	7,067	6,896	7,140		6,570		6,340		6,110		6,090	6,120	6,180	6,260	6,220
年消費支出	4,000	3,938	3,876	3,808		3,622		3,563		3,485		3,396	3,448	3,521	3,335	3,348
花き支出	23,400	23,100	23,800	22,342		20,825		19,998		17,885		17,220	16,234	16,157	16,846	16,706
切り花	13,100	12,300	12,100	11,553		11,020		10,327		9,406		8,757	8,255	8,401	8,152	7,899
園芸用品・園芸植物	10,300	10,800	11,700	10,789		9,805		9,671		8,479		8,463	7,979	7,756	8,694	8,807

出典：家計調査（二人以上の世帯：全国）【総務省】 ※H9～H11については農林漁世帯を除く。

表5-2 世帯主の年齢階級別1世帯当たりの花き支出金額の推移 (単位：円)

世帯主の年齢階級	H14	H15	～	H20	～	H25	～	H29	H30	R1	R2	R3
平均	22,010	20,825		19,998		17,885		17,220	16,234	16,157	16,846	16,706
29歳以下	6,159	5,659		4,231		3,696		4,183	3,179	2,008	4,668	3,518
30～39歳	9,669	9,342		7,849		6,405		5,893	5,583	4,390	5,834	5,641
40～49歳	14,460	12,948		11,017		8,588		7,850	6,697	7,328	7,719	7,724
50～59歳	26,304	24,460		20,439		15,359		14,281	12,654	12,049	13,681	12,240
60～69歳	30,186	29,713		30,226		25,733		23,102	22,265	22,722	23,075	23,685
70歳以上	28,676	26,528		26,719		25,172		24,400	24,000	23,754	23,553	23,462

出典：家計調査（二人以上の世帯：全国）【総務省】

4 花きの課題

(1) 生産体制の強化

- ア 高品質・安定生産に向けた技術や品種の開発及び普及
- イ 省力・低コスト化に向けた技術の開発及び設備の導入
- エ 種苗等の安定供給体制の確保
- オ 品質向上に向けた品評会や講習会等の開催

(2) 流通体制の強化

- ア 受発注情報のデジタル化に向けた技術導入等の支援
- イ 品質保持や計画出荷に向けた貯蔵・輸送技術の開発及び導入
- ウ 実需者ニーズに対応した新品目・新規格の検討及び導入の支援

(3) 消費拡大の取組

- ア 実需者ニーズの把握に向けた交流会及び商談会等の開催
- イ 花きの活用拡大に向けた花育体験・園芸体験の開催
- ウ 県産花き PR や消費拡大に向けたプロモーション活動の実施

(4) 担い手の確保・育成

- ア 就農相談窓口等を活用した担い手確保
- イ 生産者団体の活動支援による担い手の育成
- ウ 経営感覚に優れた経営体の育成

(5) 産地の活性化

- ア 銘柄産地の認定による産地の活性化

5 振興方針

ブランド力のある産地を目指して

(1) 生産体制の強化

- ア 高品質・安定生産に向けた技術や品種の開発及び普及
病害虫や生理障害等へ対応するための栽培技術及び優良品種の開発及び現地普及を支援します。
- イ 省力化や低コスト化に向けた技術の開発及び普及
燃料価格や資材価格の高騰に対応するための省力・低コスト栽培技術の研究・開発及び現地普及を支援します。
- ウ 生産性向上及び省力化のための施設整備及び機械導入の推進
環境制御システムや開花調整設備等の整備及び定植機や選別機等の省力化機械等の導入を支援します。
- エ 種苗等の安定供給に向けた技術の開発及び普及
優良品種や県育成品種の種苗等の安定生産に向けた増殖技術の開発及び現地普及を支援します。また、生産の省力化に向けた施設整備・機械導入等を支援します。
- オ 品質向上に向けた品評会や講習会等の開催
品質の高位平準化及び栽培技術の向上を図るための品評会や品質規格実態検討会及び栽培講習会等の開催を支援します。

(2) 流通体制の強化

- ア 受発注情報のデジタル化に向けた技術導入等の支援
多品目生産や実需者ニーズに対応した新規格の導入及び多様な販売先に対応するための情報管理システム等の導入を支援します。
- イ 品質保持や計画出荷に向けた貯蔵・輸送技術の開発及び導入
出荷調整時の処理やパッケージング資材等の鮮度保持技術の開発及び現地普及を支援する。また、計画出荷に向けた開花調整設備や貯蔵施設等の導入を支援します。
- ウ 実需者ニーズに対応した新品目・新規格の検討及び導入の支援
新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による花きの需要構造の変化に対応するための新品目・新規格の導入を支援します。

(3) 消費拡大の取組

- ア 実需者ニーズの把握に向けた交流会及び商談会等の開催
生産者と実需者等の交流会や商談会を開催し、実需者ニーズに対応した品目や規格の検討及び導入を支援します。
- イ 花きの活用拡大に向けた花育体験・園芸体験の開催
児童や生徒及び学生等に対する花育体験等を実施し、若い年代層の花きに対する関心を高める他、社会人等を対象とした園芸体験を実施し、花きの購買意欲の向上を図ります。
- ウ 県産花き PR や消費拡大に向けたプロモーション活動の実施
品評会や展示会等の各種イベントの開催を通して、県産花きの魅力を PR するとともに、花のある暮らしを提案することで花き文化の振興を図り、花きの消費拡大を図ります。

(4) 担い手の確保・育成

- ア 就農相談窓口等を活用した担い手確保
各農林事務所経営・普及部門及び地域農業改良普及センターに就農相談窓口を設置し、新規参入者や定年帰農者の就農及び技術習得を支援します。
- イ 生産者団体の活動支援による担い手の育成
各生産者団体の研究活動や販売促進活動等を支援することにより、担い手の技術及び経営力の向上を図ります。
- ウ 経営感覚に優れた経営体の育成
農業三士認定制度や個別経営体支援制度を活用し、経営感覚に優れた経営体の育成を図ります。

(5) 産地の活性化

ア 銘柄産地の認定による産地の活性化

銘柄産地認定制度等を活用し、産地のブランド化を推進します。

6 品目別の振興計画

(1) 輪ぎく

【現状】

本県の輪ぎくについては、東京都中央卸売市場の出荷状況を見ると、平成29年(2017年)以降、数量、単価ともに横ばいで推移しており、数量のシェア率は約3%と少ないですが、単価は全国平均を上回っています(表6-1)。

主産地である神栖市は施設及び電照を使用した黄色輪ぎくの周年栽培がおこなわれており、県の銘柄産地にも認定されています。東京都中央卸売市場においても、本県産の黄色系の品種については、数量が全体の約10%を占めており、単価は全国平均より約10%高値で取引されています(表6-1)。

表6-1 輪ぎくの出荷状況 (単位：千本・円/本)

		H15	H20	H25	H29	H30	R1	R2	R3
全体	数量	全国 158,655	147,350	118,640	110,240	104,649	98,617	95,411	97,636
		茨城 2,616	2,935	2,629	3,364	3,385	3,494	3,378	3,205
	シェア率	1.6%	2.0%	2.2%	3.1%	3.2%	3.5%	3.5%	3.3%
	単価	全国 65	63	67	66	68	67	65	63
	茨城 60	59	70	72	72	70	69	73	
	単価比	92.0%	93.3%	105.0%	108.7%	106.5%	104.0%	106.8%	115.1%
黄色系	数量	全国 43,312	44,348	36,384	34,054	32,375	29,780	28,526	29,165
		茨城 1,759	2,290	1,909	3,111	3,141	3,320	3,240	3,147
	シェア率	4.1%	5.2%	5.2%	9.1%	9.7%	11.1%	11.4%	10.8%
	単価	全国 61	57	63	64	65	65	65	65
	茨城 61	58	69	73	74	71	70	73	
	単価比	99.4%	100.9%	109.6%	114.0%	114.2%	109.6%	108.5%	112.5%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

【課題】

施設を利用した周年出荷を行っているため、肥料、資材、燃料及び電気の価格高騰による生産コストの増加や周年出荷の品質安定化が問題となっており、コスト削減に向けた対策の導入や環境制御システム及び鮮度保持技術の導入が課題となっています。

【振興方針】

- ・ 燃料価格や資材価格の高騰に対応するための省力・低コスト栽培技術の研究・開発及び現地普及を支援します。

- ・ 環境制御システムや開花調整設備等の整備及び定植機や選別機等の省力化機械等の導入を支援します。
- ・ 実需者ニーズに対応した新規格の導入及び多様な販売先に対応するための情報管理システム等の導入を支援します。
- ・ 出荷調整時の処理やパッケージング資材等の鮮度保持技術の開発及び現地普及を支援する。
- ・ 計画出荷に向けた開花調整設備や貯蔵施設等の導入を支援します。
- ・ 銘柄産地認定制度等を活用し、産地のブランド化を推進します。

(2) 小ぎく

【現状】

本県の小菊については、東京都中央卸売市場の出荷状況を見ると、平成25年（2013年）以降、数量は減少傾向にあり、シェア率は19～20%となっていますが、単価は上昇傾向であり、全国平均と同等以上となっています（表6-2-(1)）。

本県は6月から10月の夏秋期小ぎくの産地であり、主要産地である笠間市、石岡市、筑西市、桜川市、龍ヶ崎市、牛久市は県の銘柄産地にも認定されている他、鉾田市や土浦市でも生産されています。東京都中央卸売市場においても、本県産小菊の月別出荷状況については、6月から10月にかけての本県産の数量割合が30%以上となっています（表6-2-(2)）。

表6-2-(1) 小ぎくの出荷状況

(単位：千本・円/本)

	H15	~	H20	~	H25	~	H29	H30	R1	R2	R3
数 量	全国	66,558		71,637		69,067	65,447	60,462	60,691	57,658	57,703
	茨城	15,148		18,138		13,961	13,441	12,004	12,346	10,896	10,940
	シェア率	22.8%		25.3%		20.2%	20.5%	19.9%	20.3%	18.9%	19.0%
単 価	全国	30		29		32	34	36	35	37	38
	茨城	29		27		34	33	38	32	41	41
	単価比	96.1%		92.0%		106.2%	98.4%	105.5%	92.6%	109.9%	107.4%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

表6-2-(2) 小ぎくの月別出荷状況 (R3)

(単位：千本・円/本)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	
数 量	全国	2,120	2,376	8,797	3,281	3,073	3,104	6,113	7,117	8,880	2,800	2,879	7,163	57,703
	茨城	0.47	0.00	0.00	6.09	457	1,448	2,288	2,342	2,852	1,127	356	64	10,940
	シェア率	0.02%	0.00%	0.00%	0.19%	14.9%	46.6%	37.4%	32.9%	32.1%	40.2%	12.4%	0.9%	19.0%
単 価	全国	28	32	41	22	22	45	35	45	45	49	37	34	38
	茨城	25	-	-	27	33	46	36	40	41	46	41	31	41
	単価比	89.7%	-	-	120.4%	150.7%	101.6%	102.1%	88.9%	91.3%	93.7%	110.4%	91.2%	107.4%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

【課題】

高齢化による担い手不足、高温の影響による開花期の変動、病害虫の発生及び出荷時の障害発生による品質低下が問題となっており、担い手の確保・育成、省力化対策の導入、安定生産・品質向上技術の開発・導入が課題となっています。

【振興方針】

- ・ 病害虫や生理障害等へ対応するための栽培技術及び優良品種の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 開花調整設備等の整備及び定植機や選別機等の省力化機械等の導入を支援します。
- ・ 品質の高位平準化及び栽培技術の向上を図るための品評会や品質規格実態検討会及び栽培講習会等の開催を支援します。
- ・ 出荷調整時の処理やパッケージング資材等の鮮度保持技術の開発及び現地普及を支援する。
- ・ 計画出荷に向けた開花調整設備や貯蔵施設等の導入を支援します。
- ・ 各農林事務所経営・普及部門及び地域農業改良普及センターに就農相談窓口を設置し、新規参入者や定年帰農者の就農及び技術習得を支援します。
- ・ 農業三士認定制度や個別経営体支援制度を活用し、経営感覚に優れた経営体の育成を図ります。
- ・ 銘柄産地認定制度等を活用し、産地のブランド化を推進します。

(3) ばら

【現状】

本県のばらについては、東京都中央卸売市場の出荷状況を見ると、平成20年（2008年）以降、数量は減少傾向にあり、シェア率も低下傾向となっていますが、単価については上昇傾向となっており、全国平均と概ね同等となっています（表6-3）。

また、県内広域組織の「茨城県ばら切花研究会」が組織され、燃油削減対策の導入や新品種の導入等に取り組んでいます。

表6-3 ばらの出荷状況

(単位：千本・円/本)

	H15	~	H20	~	H25	~	H29	H30	R1	R2	R3	
数 量	全国	95,201		86,181		70,011		58,950	57,056	54,116	48,608	48,450
	茨城	4,479		4,916		4,069		3,252	3,067	2,820	2,399	2,351
	シェア率	4.7%		5.7%		5.8%		5.5%	5.4%	5.2%	4.9%	4.9%
単 価	全国	78		83		81		87	86	87	83	98
	茨城	79		81		81		85	84	88	82	97
	単価比	101.9%		98.1%		99.6%		98.0%	97.7%	100.6%	98.4%	98.7%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

【課題】

施設を利用した周年栽培を行っているため、肥料、資材、燃料及び電気の価格高騰により生産コストが増加しており、コスト削減に向けた対策の導入が課題となっています。また、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により需要構造が変化しており、需要の把握や需要に適した品種や出荷規格への転換が課題となっています。

【振興方針】

- ・ 燃料価格や資材価格の高騰に対応するための省力・低コスト栽培技術の研究・開発及び現地普及を支援します。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による花きの需要構造の変化に対応するための新品目・新規格の導入を支援します。
- ・ 生産者と実需者等の交流会や商談会を開催し、実需者ニーズに対応した品目や規格の検討及び導入を支援します。

(4) カーネーション

【現状】

本県のカーネーションについては、東京都中央卸売市場の出荷状況を見ると、平成15年（2003年）以降、数量は減少傾向にあり、シェア率は約4%で推移していますが、単価については上昇傾向にあり、全国平均と概ね同等となっています（表6-4）。

また、県内広域組織の「常陸野カーネーション組合」が組織され、スプレー品種を中心に生産し、共同出荷を行っている他、オリジナル品種の開発や日持ち保証制度の導入等に取り組んでいます。東京都中央卸売市場においても、本県産のスプレー系の品種については、数量のシェア率が約6%と、カーネーション全体よりも高くなっていますが、単価については全国平均よりやや低く推移しています（表6-4）。

表6-4 カーネーションの出荷状況

(単位：千本・円/本)

		H15	~	H20	~	H25	~	H29	H30	R1	R2	R3	
全 体	数 量	全国	82,956		77,625		59,681		46,796	45,759	43,581	39,043	40,261
		茨城	3,358		2,889		2,450		1,821	1,830	1,699	1,568	1,608
	単 価	シェア率	4.0%		3.7%		4.1%		3.9%	4.0%	3.9%	4.0%	4.0%
		単価比	96.1%		106.8%		87.4%		101.1%	95.4%	98.8%	95.1%	99.0%
ス プ レ ー	数 量	全国	48,669		40,994		29,273		22,692	22,278	21,647	19,544	20,639
		茨城	2,861		2,181		2,109		1,453	1,466	1,390	1,311	1,304
	単 価	シェア率	5.9%		5.3%		7.2%		6.4%	6.6%	6.4%	6.7%	6.3%
		単価比	93.3%		105.3%		85.6%		96.4%	90.5%	93.7%	85.9%	93.6%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

【課題】

6～7月定植、11月～5月出荷の作型が定着しているため、育苗期の高温による品質低下への対策や肥料、資材、燃料及び電気の価格高騰への対策の導入が課題となっています。また、新型コロナウイルス感染症拡大等の影響により需要構造が変化しており、需要の把握や需要に適した品種や出荷規格への転換が課題となっています。

【振興方針】

- ・ 病害虫や生理障害等へ対応するための栽培技術及び優良品種の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 燃料価格や資材価格の高騰に対応するための省力・低コスト栽培技術の研究・開発及び現地普及を支援します。
- ・ 環境制御システムや開花調整設備等の整備及び定植機や選別機等の省力化機械等の導入を支援します。
- ・ 優良品種や県育成品種の種苗等の安定生産に向けた増殖技術の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 品質の高位平準化及び栽培技術の向上を図るための品評会や品質規格実態検討会及び栽培講習会等の開催を支援します。
- ・ 生産者と実需者等の交流会や商談会を開催し、実需者ニーズに対応した品目や規格の検討及び導入を支援します。

(5) グラジオラス

【現状】

本県のグラジオラスについては、東京都中央卸売市場の出荷状況を見ると、平成15年（2003年）から平成25年（2013年）にかけて大幅に出荷数量が減少しましたが、平成25年（2013年）以降は数量はほぼ横ばいで推移し、一方で、販売単価は平成25年（2013年）以降上昇傾向にあります（表6-5-(1)）。

主産地の土浦市は県の銘柄産地に指定されており、主に5月から11月出荷の作型が主体となっています。東京都中央卸売市場においても、本県産グラジオラスについては、5月から11月にかけての出荷数量が概ね50%以上のを占めています（表6-5-(2)）。

	H15	H20	H25	H29	H30	R1	R2	R3
数 量	全国	7,218	6,472	4,702	4,526	4,469	4,214	3,984
	茨城	3,631	2,656	1,910	2,257	2,195	2,053	2,010
	シェア率	50.3%	41.0%	40.6%	49.9%	49.1%	48.7%	50.4%
単 価	全国	45	48	58	56	60	59	67
	茨城	39	39	50	46	51	54	57
	単価比	87.4%	81.1%	86.5%	81.7%	85.6%	88.6%	85.5%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

表6-5-(2) グラジオラスの月別出荷状況 (R3)

(単位：千本・円/本)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
数量	全国 138	124	175	203	312	565	567	524	434	485	242	217	3,984
	茨城 0	0	0	3	177	512	370	253	249	307	138	0	2,010
シェア率	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%	56.9%	90.6%	65.3%	48.4%	57.2%	63.3%	57.2%	0.1%	50.4%
単価	全国 66	77	86	86	68	53	51	65	72	52	91	103	67
	茨城 -	-	-	132	68	53	48	56	67	48	77	62	57
単価比	-	-	-	153.8%	100.2%	99.8%	94.1%	86.4%	93.3%	92.8%	84.6%	60.0%	85.5%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

【課題】

高温や連作の影響による生理障害の発生や病害虫の発生による品質低下、球根の安定確保、球根定植時の労力確保及び冠婚葬祭等の業務需要の減少が問題となっており、安定生産・品質向上技術の開発・導入や省力化対策の導入が課題となっています。

【振興方針】

- ・ 病害虫や生理障害等へ対応するための栽培技術及び優良品種の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 優良品種や県育成品種の種苗等の安定生産に向けた増殖技術の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 生産の省力化に向けた施設整備・機械導入等を支援します。
- ・ 品質の高位平準化及び栽培技術の向上を図るための品評会や品質規格実態検討会及び栽培講習会等の開催を支援します。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による花きの需要構造の変化に対応するための新品目・新規格の導入を支援します。
- ・ 生産者と実需者等の交流会や商談会を開催し、実需者ニーズに対応した品目や規格の検討及び導入を支援します。
- ・ 銘柄産地認定制度等を活用し、産地のブランド化を推進します。

(6) フリージア**【現状】**

本県のフリージアについては、東京都中央卸売市場の出荷状況を見ると、平成15年(2003年)以降出荷数量は減少傾向にあるが、全国の出荷数量に占める割合は45%以上を占めています(表6-6)。なお、販売単価については、本県産は全国平均単価より高値で取引されており、さらに、令和元年(2019年)以降は販売単価が上昇傾向となっています(表6-6)。

また、任意組織の「茨城県フリージア研究会」が組織され、現地研修会の開催による技術向上やオリジナル品種の開発等に取り組んでいます。

表6-6 フリージアの出荷状況

(単位：千本・円/本)

	H15	~	H20	~	H25	~	H29	H30	R1	R2	R3	
数 量	全国	11,560		8,435		6,393		4,667	4,531	3,690	3,841	3,690
	茨城	3,710		3,181		2,865		2,147	2,412	1,700	2,025	1,700
	シェア率	32.1%		37.7%		44.8%		46.0%	53.2%	46.1%	52.7%	46.1%
単 価	全国	41		44		42		47	46	54	49	54
	茨城	48		50		46		52	49	58	52	58
	単価比	116.3%		113.1%		108.5%		110.2%	105.8%	108.1%	105.7%	108.1%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

【課題】

高温や連作の影響による生理障害の発生による品質低下、球根の安定確保、球根定植時の労力確保が問題となっており、安定生産・品質向上技術の開発・導入や省力化対策の導入が課題となっています。

【振興方針】

- ・ 病害虫や生理障害等へ対応するための栽培技術及び優良品種の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 燃料価格や資材価格の高騰に対応するための省力・低コスト栽培技術の研究・開発及び現地普及を支援します。
- ・ 環境制御システム等の整備及び定植機や選別機等の省力化機械等の導入を支援します。
- ・ 優良品種の種苗等の安定生産に向けた増殖技術の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 品質の高位平準化及び栽培技術の向上を図るための品評会や品質規格実態検討会及び栽培講習会等の開催を支援します。
- ・ 生産者と実需者等の交流会や商談会を開催し、実需者ニーズに対応した品目や規格の検討及び導入を支援します。

(7) 切枝類**【現状】**

本県の切枝類については、主に千両、松、花桃、柳類が主要な品目となっており、千両及び松は神栖市、花桃は笠間市、城里町、常陸大宮市、大子町、常陸太田市、柳類は土浦市、常陸大宮市、大子町、常陸太田市が主産地となっています。また、常陸大宮市、大子町、常陸太田市については、枝物多品目産地として、県の銘柄産地に指定されています。

各品目について東京都中央卸売市場の出荷状況を見てみると、千両については、平成15年(2003年)から令和元年(2019年)にかけて出荷数量が減少傾向にあります。

たが、以降は増加に転じており、全国の出荷量の約60%を占めている状況です（表6-7）。

松類については、平成15年（2003年）以降、出荷数量は年次変動があるもののほぼ横ばいで推移しており、全国の出荷量の約80%を占めている状況です（表6-7）。

花桃については、平成15年（2003年）から平成29年（2017年）にかけて出荷数量が大幅に増加し、以降は横ばいとなっていますが、全国の出荷量に占める割合は増加傾向にあり、令和3年（2021年）は37%となっています（表6-7）。また、販売単価についても平成29年（2017年）以降は上昇傾向にあり、全国平均単価と比較して5%以上高値となっています（表6-7）。

柳類については、平成15年（2003年）から平成30年（2018年）にかけて出荷数量が大幅に減少しましたが、以降は横ばいで推移し、全国の出荷量の60%以上を占めている状況です（表6-7）。

表6-7 切枝類の出荷状況 (単位：千本・円/本)

		H15	~	H20	~	H25	~	H29	H30	R1	R2	R3
千両	数量	全国	4,306	3,911	3,438	3,032	2,019	2,051	2,093	2,027		
		茨城	2,572	2,361	2,088	1,945	1,151	1,138	1,201	1,241		
		シェア率	59.7%	60.4%	60.7%	64.2%	57.0%	55.5%	57.4%	61.2%		
	単価	全国	109	89	138	115	194	204	180	182		
	茨城	95	79	127	101	182	197	165	167			
	単価比	87.3%	89.1%	91.8%	87.8%	93.9%	96.5%	91.5%	91.6%			
松	数量	全国	5,745	6,045	5,779	5,360	5,418	4,878	5,040	4,508		
		茨城	4,638	5,022	4,619	4,333	4,544	4,021	4,181	3,645		
		シェア率	80.7%	83.1%	79.9%	80.8%	83.9%	82.4%	82.9%	80.8%		
	単価	全国	72	65	75	87	81	89	85	100		
	茨城	67	62	74	86	79	88	85	99			
	単価比	92.7%	95.4%	98.8%	99.0%	97.5%	98.6%	99.9%	99.0%			
花桃	数量	全国	932	889	903	876	882	836	767	724		
		茨城	106	113	209	282	284	286	296	268		
		シェア率	11.4%	12.7%	23.1%	32.2%	32.2%	34.2%	38.6%	37.0%		
	単価	全国	179	196	177	164	166	161	167	177		
	茨城	156	187	172	176	175	180	186	188			
	単価比	87.2%	95.4%	97.2%	107.3%	105.4%	111.8%	111.4%	106.2%			
柳類	数量	全国	1,111	1,216	849	805	711	680	594	673		
		茨城	717	669	495	507	452	453	383	457		
		シェア率	64.6%	55.0%	58.3%	63.0%	63.6%	66.6%	64.5%	68.0%		
	単価	全国	103	84	85	103	111	121	104	101		
	茨城	92	89	85	100	106	115	101	100			
	単価比	89.7%	105.3%	99.9%	97.5%	95.5%	95.3%	96.9%	98.7%			

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】 ※全国の数値は輸入を除く。

【課題】

千両については、連作による病害虫の発生が問題となっており、対策技術の開発・導入、松や柳類については、生産者の高齢化や担い手不足が問題となっており、省力が技術の導入が課題となっています。また、花桃については台木や生産量の確保が問題となっており、生産性向上に向けた技術の開発・導入が課題となっています。

その他、切枝類についてはいけ花需要の減少が問題となっており、消費拡大に向けたプロモーション活動の実施や実需者ニーズに合わせた出荷規格の検討及びそれに対応した流通システムの開発・導入が課題となっています。

【振興方針】

- ・ 病害虫や生理障害等へ対応するための栽培技術の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 開花調整設備等の整備を支援します。
- ・ 優良品種や県育成品種の種苗等の安定生産に向けた増殖技術の開発及び現地普及を支援します。
- ・ 生産の省力化に向けた施設整備・機械導入等を支援します。
- ・ 多品目生産や実需者ニーズに対応した新規格の導入及び多様な販売先に対応するための情報管理システム等の導入を支援します。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による花きの需要構造の変化に対応するための新品目・新規格の導入を支援します。
- ・ 生産者と実需者等の交流会や商談会を開催し、実需者ニーズに対応した品目や規格の検討及び導入を支援します。
- ・ 品評会や展示会等の各種イベントの開催を通して、県産花きの魅力をPRするとともに、花のある暮らしを提案することで花き文化の振興を図り、花きの消費拡大を図ります。
- ・ 各農林事務所経営・普及部門及び地域農業改良普及センターに就農相談窓口を設置し、新規参入者や定年帰農者の就農及び技術習得を支援します。
- ・ 各生産者団体の研究活動や販売促進活動等を支援することにより、担い手の技術及び経営力の向上を図ります。

（8）鉢花・花壇苗類

【現状】

本県の鉢物類については、東京都中央卸売市場の出荷状況を見ると、平成15年（2003年）以降、出荷数量は減少傾向にありますが、販売単価については上昇傾向にあり、全国平均と同等以上となっています（表6-8）。また、苗物類については、平成15年（2003年）から平成30年（2018年）にかけて出荷数量が大幅に減少しましたが、販売単価については上昇傾向となっています（表6-8）。

また、任意団体の「茨城県鉢物生産者協議会」が組織され、燃油削減対策の導入や品評会の開催による生産技術の高位平準化等に取り組んでいます。

表6-8 鉢花・花壇苗類の出荷状況 (単位：千鉢・円/千鉢, 千箱・円/箱)

		H15	~	H20	~	H25	~	H29	H30	R1	R2	R3	
鉢花類	数量	全国		33,319		25,861		19,148	16,127	14,391	12,498	11,693	11,893
		茨城		3,002		2,233		1,765	1,265	1,078	940	898	954
		シェア率		9.0%		8.6%		9.2%	7.8%	7.5%	7.5%	7.7%	8.0%
苗類	単価	全国		275		292		322	344	349	341	364	398
		茨城		304		332		349	356	358	347	376	411
		単価比		110.5%		113.7%		108.4%	103.5%	102.6%	101.8%	103.3%	103.3%
花壇	数量	全国		4,074		3,636		3,327	3,033	2,804	2,614	2,573	2,645
		茨城		374		249		179	131	122	111	111	122
		シェア率		9.2%		6.8%		5.4%	4.3%	4.3%	4.3%	4.3%	4.6%
苗類	単価	全国		1,259		1,332		1,456	1,653	1,661	1,670	1,816	1,916
		茨城		1,111		1,180		1,216	1,312	1,318	1,368	1,527	1,528
		単価比		88.2%		88.6%		83.5%	79.4%	79.3%	81.9%	84.1%	79.7%

出典：市場統計情報【東京都中央卸売市場】

【課題】

鉢花・花壇苗類については、施設を利用し、かつ複数の品目を組み合わせた周年生産を行っていることから、肥料、資材、燃料及び電気の価格高騰による生産コストの増加や品目・規格等の実需者ニーズの多様化が問題となっており、コスト削減に向けた対策や環境制御システムの導入、実需者ニーズの把握が課題となっています。

【振興方針】

- ・ 燃料価格や資材価格の高騰に対応するための省力・低コスト栽培技術の研究・開発及び現地普及を支援します。
- ・ 環境制御システムや開花調整設備等の整備等の導入を支援します。
- ・ 多品目生産や実需者ニーズに対応した新規格の導入及び多様な販売先に対応するための情報管理システム等の導入を支援します。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響等による花きの需要構造の変化に対応するための新品目・新規格の導入を支援します。
- ・ 生産者と実需者等の交流会や商談会を開催し、実需者ニーズに対応した品目や規格の検討及び導入を支援します。
- ・ 児童や生徒及び学生等に対する花育体験等を実施し、若い年代層の花きに対する関心を高める他、社会人等を対象とした園芸体験を実施し、花きの購買意欲の向上を図ります。